

水前寺公園のササゴイの撒き餌漁と環境

熊本マリスト学園高等学校 2年 サイエンス部

1 研究の動機

水前寺公園では、サギ科の鳥ササゴイが撒き餌漁と呼ばれる知的な漁をする事で知られている。撒き餌漁とは、水面に餌となるものを落とし寄って来た魚を捕らえる採食方法である。ササゴイの撒き餌漁が見られる地域は世界でも非常に限られているが、なかでも、水前寺公園で見られる撒き餌漁は、その技術がとても優れている（黒沢・樋口 1993）。また、30 年以上も継続して見られている事は、他の地域には無い特徴である。日本では、1980 年代に見つかり当初は研究されていたが、2000 年代に入り詳しい研究はなされていなかったため、私たちの先輩が 2013 年から調査を始めた。今年は、個体間の関係の続きを行うと共に、撒き餌漁と環境の関係に焦点を当て、調べる事にした。

2 研究の目的

- (1) 個体識別を行い、水前寺公園を利用している個体の経年変化、個体間の関係を明らかにする。
- (2) 水前寺公園の環境を調べ、撒き餌漁と環境の関係を明らかにする。
- (3) (1)、(2)から、優れた撒き餌漁が 30 年以上継続して見られる理由を明らかにする。

3 調査期間と調査地

調査期間：2014 年 5 月～2015 年 10 月

調査地：水前寺公園とその周辺

4 結果

- (1) ギザギザ、匠、黄足、点など毎年違う個体が来ており（図 1）、北側の漁場を強い個体が占有する傾向が今年も継続している。
- (2) 石の高さは、水面から 0～15cm の場所で撒き餌漁が見られた（図 2）。水深は少し深めの 35～40cm の深さで浅い所より撒き餌漁をすることが多かった。

5 まとめ

水前寺公園には低い石が多く、水深が適度で、魚がササゴイを見つけにくい環境であり、さらに石の近くに撒き餌の道具となるハエなどがたくさんいた。鮎やポン菓子に鯉に与える観光客がおり、水前寺公園は、ササゴイが撒き餌漁を思いつきやすい、行いやすい環境である事が、継続して見られる原因であると考えられる。



図 1

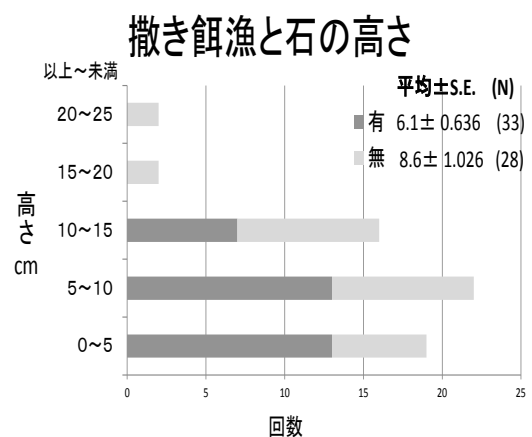


図 2